

建設分野の国家公務員・地方公務員をめざす

想定される具体的な進路・職種

国家公務員・地方公務員の建設系技術職

国家公務員、地方公務員の建設系技術職は、道路、河川、上下水道等の社会基盤に関する計画、設計、建設、維持管理などに管理者の立場として従事する職業です。そのため、幅広い専門知識や専門技術に裏打ちされた判断力が求められます。そこで、構造設計学、河川工学、水文学、地盤工学、都市・交通計画学、建設材料学など、建設分野の管理者として必要な総合力、技術的判断力を養うために必要な専門科目を幅広く履修するとともに、専修科目として学ぶ分野に関しては特に重点的に学習し、その分野の専門技術者としての専門知識を身に付けることが重要です。

● 選択科目 ● 選択必修科目 ● 必修科目

| 専修分野 | 授業科目 |
|------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ● 構造設計学特論 I ● 河川工学特論 I ● 河川工学特論 II ● 水文学特論 I ● 水文学特論 II ● 地盤工学特論 I ● 地盤工学特論 II ● 都市システム工学特論 I ● 都市システム工学特論 II ● 交通システム工学特論 I ● 交通システム工学特論 II ● 建設材料学特論 I ● 建設材料学特論 II ● 建設材料力学特論 I |
| 関連科目 | |

※履修モデルはあくまでも一例です。

※カリキュラムは変更となる場合があります。

※記載された科目のみでは修了要件を満たしていない場合があります。履修の際は、カリキュラム表などで確認のうえ、履修をしてください。

建設分野の技術系コンサルタントをめざす

想定される具体的な進路・職種

建設コンサルタント・計画設計技術者

建設技術系コンサルタントでは、橋梁設計、道路計画などの構造事業から河川全般の調査や設計にかかわる社会計画事業まで、多様な事業を展開しており、それぞれの分野で高度な専門知識と課題解決能力が求められます。このようなコンサルタントをめざす人は、例えば構造解析学特論や構造設計学を通じて、橋梁に関する高度な専門知識を習得し、さらに地盤構造物の設計・解析に必要な地盤解析学特論、水工系の河川工学特論や水文学特論、地域計画系の都市システム工学特論、建設材料学などの関連分野の知識を幅広く履修することが重要です。

● 選択科目 ● 選択必修科目 ● 必修科目

| 専修分野 | 授業科目 |
|------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ● 構造解析学特論 I ● 構造解析学特論 II ● 構造設計学特論 I ● 構造設計学特論 II ● 河川工学特論 I ● 土砂水理学特論 I ● 水文学特論 I ● 地盤解析学特論 I ● 地盤解析学特論 II ● 都市システム工学特論 I ● 都市システム工学特論 II ● 建設材料学特論 I ● 建設材料学特論 II ● 建設材料力学特論 I |
| 関連科目 | |

※履修モデルはあくまでも一例です。

※カリキュラムは変更となる場合があります。

※記載された科目のみでは修了要件を満たしていない場合があります。履修の際は、カリキュラム表などで確認のうえ、履修をしてください。

建設分野の民間企業就職をめざす

想定される具体的な進路・職種

総合建設会社（ゼネコン）・建設施工技術者

総合建設会社（ゼネコン）は、橋梁やライフラインを始めとする建設インフラ構造物を対象とした、設計、施工、そして技術研究を行う部署を有する大規模な会社です。上記の各部署で働く建設技術者をめざす人は、指導教員が開講する特論、特別演習、特別実験を必須として、構造、水理、地盤、計画、材料、防災の各分野の内、複数の特論を修得することにより、幅広い建設分野の専門知識をより深く修得することが必要です。また、アドバンストインターンシップにおいて建設技術者が実施する業務内容を事前に把握することも重要です。

● 選択科目 ● 選択必修科目 ● 必修科目

| 専修分野 | 授業科目 |
|------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ● 構造解析学特論 I ● 構造設計学特論 I ● 構造設計学特論 II ● 土砂水理学特論 I ● 地盤工学特論 I ● 地盤工学特論 II ● 地盤解析学特論 I ● 都市システム工学特論 I ● 交通システム工学特論 I ● 建設材料学特論 I ● 建設材料学特論 II ● 建設材料力学特論 I ● 建設材料力学特論 II ● アドバンスト・インターンシップ |
| 関連科目 | |

※履修モデルはあくまでも一例です。

※カリキュラムは変更となる場合があります。

※記載された科目のみでは修了要件を満たしていない場合があります。履修の際は、カリキュラム表などで確認のうえ、履修をしてください。